

インターバンクの声（2016年6月23日）

過去2, 3週間にわたり、金融市場で話題の中心だった欧州連合 (EU) 離脱か、残留かの是非を問う国民投票がいよいよ始まる。投票間際まで世論調査が行われるのもどうかと思うが、“英国の世論調査ほど当てにならないものはない”との声も聞かれ、残留派リードとの最新の調査結果も割り引いて受け止める必要があるだろう。普通に考えるとEUからの離脱に経済的なメリットは余りないような気もするが、難民・移民に職を奪われていると認識する人々や、古き良き時代の英国を知る高齢者にとっては、EUとの連携はマイナスにしか感じられないのだろう。離脱となった場合、英国側とEU側どちらに大きなリスクが出るのかといった予想も盛んに行なわれているが、オランダ仏大統領は、「英国がEUを離脱すればEU市場へのアクセスを失い、EU経済圏に関係するすべてから締め出される深刻なリスクが発生する」と述べている。「離脱を決定すれば、後戻りもできない」と警告しているが、他のEU加盟国への離脱連鎖を考えれば当然の発言だろう。今日の東京時間は取引を控える人がほとんどになりそうだが、明日の朝、開票開始から結果が判明するまで相場がどういう反応を見せるか全く予想が付かない。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。